

年間予定表

日程	期	活動	講座名	会場
2020年 8月 1日(土)	第1期	活動①	〈徴しの上を鳥が飛ぶII〉 オープニング講座	オンライン
2020年 8月 2日(日)		活動①	シンポジウム「アート、記憶、政治 — あいちトリエンナーレから一年に考える」	オンライン
2020年 8月 9日(日) 2020年 8月23日(日)		活動②	〈徴しの上を鳥が飛ぶII〉 連続レクチャー	オンライン
2020年 9月21日(月祝) or 22日(火祝)	第2期	活動③-1	森村泰昌との対話2	モリムラ@ミュージアム
2020年12月12日(土)		活動③-2	バックステージ・セミナー2	箕面市立メイプルホール
2020年12月 5日(土)		活動③-3	工芸の魅力を伝える	オンライン
2020年11月28日(土) 2020年11月29日(日)		活動④-1	現代における芸能の所在	大阪大学
2020年10月31日(土)		活動④-2	アート・リング ～アートのエコシステムへのいざない～	大阪大学総合学術博物館
2020年 9月12日(土) 2020年11月 7日(土)		活動④-3	水都大阪エコミュージアムプロジェクト	乗船
2020年12月13日(日)	活動⑤-1	伝統演劇の現代的表現をめぐる	伊丹アイホール	
2020年10月11日(日)	活動⑤-2	バックステージ・セミナー1	同志社高校	
2021年 2月20日(土)	第3期	活動⑥	作品制作とセッション	オンライン
2020年11月		活動⑦	食のつながり — 神山町のフード・ハブ・プロジェクト	オンライン
2021年 3月 6日(土)		活動⑧	〈徴しの上を鳥が飛ぶII〉 クロージング・シンポジウム	オンライン

本年度も「徴しの上を鳥が飛ぶ—文学研究科におけるアート・ブラクシス人材育成プログラム」を実施することができ、嬉しく思います。今年はその2年目、昨年より一層充実した取組に行きたいと思ひます。

この現代という時代の、様々な徴しに取り巻かれている私たちの生を、ほかならぬアートを通していくらかでも解き放つことができればと考え、このプログラムを始めたわけですが、昨年度の終わりには予想外の新型コロナウイルス感染拡大が始まりました。最初に感染爆発をしたのはイタリアで、3月9日には全国規模の都市閉鎖が行われました。続いてスペイン、フランス、そしてベルギーと次々に全国規模の封鎖措置が取られました。日本も3月には感染が拡大し、年度を跨いで4月7日に緊急事態宣言が出されました。その後のことはここで記すまでもないでしょう。言いうことは、私たちの社会生活が一変してしまったということです。6月にはようやく自粛緩和が始まりますが、元の生活が戻ってくることはしばらくはないでしょう。このプログラムも例年でしたら5月の連休明けには受講生募集を開始するところですが、今年については全く先行きの見通しが立たず、取りかかることができませんでした。ひと月遅れ

てようやくスタートとなり、ひとまずは安堵しているところですが、今後のことを考えると明るい見通しばかりではありません。

しかし世界はいつの時にも、様々な危機、臨界点、瀬戸際、まったなしの状況の繰り返してした。戦争、革命、経済不況、移住と民族問題、冷戦、核実験、原発事故、大災害と私たちの暮らしを根本から変える大きな出来事が繰り返されてきました。そのような時でも、しかしアートや芸術は決してなくなることはなく、その時代の危機と場合によっては共生し、場合によっては批評しながら、様々な形を変えてこれらの危機を乗り越えてきました。今、私たちが信じていることができるのであれば、このようなアートの変幻自在な力だろうと思ひます。

今年度はこの感染症拡大という事態を乗り越えなければなりません。グローバルに人々やマネーが世界中を闊歩していた時代は休止、今はウイルスだけがそれに取って代わろうとしています。この「徴し」の上を、アートを通じて飛び越えて行くことは、どのようにしたらできるのでしょうか。このような時代だからこそ、人文学的なアプローチを土台にして、アートの潜在力を確認し、アートを自分たちの飛ぶ鳥として行ければと思っています。

ごあいさつ

コロナ時代の
アート人材育成のために

文学研究科 永田靖

本プログラムでは、演劇、音楽、美術など多岐にわたる芸術や文化の諸理論、また諸相に具体的に触れることで、アートを展開する場や共同体の特性に応じて臨機応変に対応する実践的な「アート・ブラクシス」能力を養います。今日の「アート・マネジメント人材」に求められる、様々な課題への注意深いまなざし、その課題に向けたアートによる探求の試みを実践していける人を育成します。

1年を3つの期間に分けてプログラムを実施します

【第1期】セミナーとレクチャー：
アート・マネジメントや文化政策について学ぶ基礎レクチャーの期間

【第2期】インターウィーク：
アーティストとの対話などを通じてアートの事前・事後双方の扱いを含めて学習する期間

【第3期】作品制作：
プログラムで学んだことを具体化しつつ作品制作と公開を進める期間

本プログラムは、大阪大学大学院文学研究科が主催し、大阪大学総合学術博物館との共催により、開講いたします。また本プログラムは令和2年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」による助成を受けております。本プログラムは、近隣のあいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホール、大阪中之島美術館準備室、浄るりシアター、吹田市文化会館 メイシアター、豊中市都市活力部文化芸術課、兵庫県立尼崎青少年創造劇場 ピッコロシアター、公益財団法人 箕面市メイプル文化財団などの芸術諸機関の協力を得て行います。



主催：大阪大学大学院文学研究科
共催：大阪大学総合学術博物館
連携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
大阪新美術館建設準備室
浄るりシアター
公益財団法人吹田市文化振興事業団（メイシアター）
豊中市都市活力部文化芸術課
兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）
公益財団法人 箕面市メイプル文化財団
助成：令和2年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」

お問い合わせ：〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5
アート・ブラクシス人材育成プログラム事務局
tyamazaki@let.osaka-u.ac.jp
お問い合わせフォーム：https://shirutori.org/contact

連携機関アドバイザー

尾西 教彰 兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）
演劇教育専門員
菅谷 富夫 大阪中之島美術館準備室室長／大阪中之島美術館館長
古矢 直樹 吹田市文化振興事業団（メイシアター）常務理事・事務局長
松田 正弘 浄るりシアター館長
宮地 泰史 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
企画事業担当チーフ・マネージャー

西岡 良和 豊中市都市活力部文化芸術課振興係係長
和田 大資 公益財団法人 箕面市メイプル文化財団
芸術創造セクションマネージャー

事業担当者

永田 靖 大阪大学総合学術博物館・大阪大学文学研究科(事業推進者)
伊東 信宏 大阪大学大学院文学研究科(事業推進者)
渡辺 浩司 大阪大学大学院文学研究科(事務局)
橋爪 節也 大阪大学総合学術博物館
岡田 裕成 大阪大学文学研究科教授
高安 啓介 大阪大学文学研究科准教授
古後奈緒子 大阪大学大学院文学研究科
伊藤 謙 大阪大学総合学術博物館
横田 洋 大阪大学総合学術博物館・大阪大学大学院文学研究科
山崎 達哉 大阪大学大学院文学研究科(事務局)

濱村 和恵 デザイン

大阪大学大学院文学研究科 主催
文学研究科におけるアート・ブラクシス人材育成プログラム

徴しの上を鳥が飛ぶII

第1期 セミナーとレクチャー

アートが社会に成し得る可能性と今日的意義と問題を学ぶとともに、本事業の理念(「アート・プラクティス」能力のある人材育成と、人文学研究成果を活かすアートの新たな可能性の探求)を共有します。

第1期 活動①

「微しの上を鳥が飛ぶII」オープニング講座

開催日：2020年8月1日(土)
場所：オンライン
講師：永田靖(大阪大学大学院文学研究科・大阪大学総合学術博物館)、伊東信宏(大阪大学大学院文学研究科)、渡辺浩司(大阪大学大学院文学研究科)、橋爪節也(大阪大学総合学術博物館)、岡田裕成(大阪大学大学院文学研究科)、高安啓介(大阪大学大学院文学研究科)、古後奈緒子(大阪大学大学院文学研究科)、伊藤謙(大阪大学総合学術博物館)、横田洋(大阪大学総合学術博物館・大阪大学大学院文学研究科)、山崎達哉(大阪大学大学院文学研究科)ほか

第1期 活動①

シンポジウム「アート、記憶、政治」

象徴的な価値を帯びた表現媒体としての「芸術/アート」は、その成り立ちにおいて政治的な存在です。社会におけるアイデンティティのありようが複雑化する今日、アートの持つ政治性は時に先鋭化し、予期せぬ軋轢にも繋がります。このシンポジウムでは、アートと政治、歴史の記憶をめぐる問題を、昨年の「あいちトリエンナーレ」に参加した小田原のどかさん(彫刻家)ら関係者のご報告を軸に、ディスカッションに現代美術研究者の池上裕子さん(神戸大学准教授)も迎えて、語り合います。
開催日：2020年8月2日
場所：オンライン
講師：小田原のどか(美術作家)、池上裕子(神戸大学国際文化学大学院文学研究科)、岡田裕成(大阪大学大学院文学研究科)

第1期 活動②

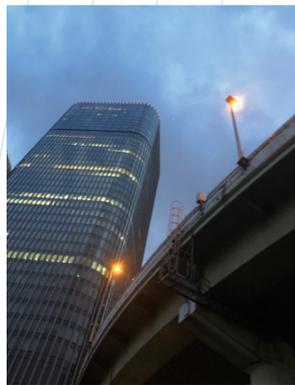
「微しの上を鳥が飛ぶII」連続レクチャー

アート・マネジメント基礎講座として、「アートマネジメントの実際」、「アート研究の現在」、「アートとデザイン」の3カテゴリーについて、ゲスト講師による講演を行います。
井原麗奈「人が集まる、人を集める～ホールと催事の昔と今」
植木啓子「デザインミュージアムとアーカイブの可能性と実際」
川崎陽子「創造と実験のプラットフォームとしての舞台芸術：フェスティバルと国際プロジェクトの事例から」
齋藤亜矢「芸術するところの起源」
開催日：2020年8月9日(日)、8月23日(日)
場所：オンライン
講師：井原麗奈(静岡大学地域創造学環)、植木啓子(大阪中之島美術館準備室)、川崎陽子(KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 共同ディレクター)、齋藤亜矢(京都芸術大学文明哲学研究所)

第2期 活動④-3 【アイデンティティの揺れ】

水都大阪エコミュージアムプロジェクト

社会に開いた新しいミュージオロジー(museology)の探究として、「地域全体をミュージアム」と見なす「エコミュージアム(Ecomuseum)」を、水都大阪をモチーフに模索します。描かれた歴史的な水辺の風景なども参考に、運河埋め立てによる戦後のモーターゼーションによる都市アイデンティティの動揺や、水辺で生活してきた住民の記憶の在りかを探り、大阪市内で開催される展覧会や画廊の企画展をつなぐとともに、水辺を軸とした「エコミュージアム(Ecomuseum)」を探ります。
開催日：2020年9月12日(土)、11月7日(土)
場所：大阪大学、乗船ツアー
講師：橋爪節也(大阪大学総合学術博物館)、山崎達哉(大阪大学大学院文学研究科)



第2期 活動③-1 【対立と調停】

森村泰昌との対話2

2018年11月3日に、大阪・北加賀屋に美術家・森村泰昌の美術館(M@m(モリムラ@ミュージアム))が完成しました。現代美術家である森村泰昌は、「セルフ・ポートレート」という作品を通し、様々な問題(人種・民族、ジェンダー、作家や美術、美術史研究の積み重ねなど)を提起しています。前年度に引き続き、展覧会を鑑賞し、森村泰昌本人と対話を行うことで、作家自身が作品制作やアートそのものにおいて起さうるいかに対立と調停を行なっているかを学習します。
開催日：2020年9月21日(月祝) or 22日(火祝)
場所：M@m(モリムラ@ミュージアム)
講師：森村泰昌(美術家)、橋爪節也(大阪大学総合学術博物館)、渡辺浩司(大阪大学大学院文学研究科)、山崎達哉(大阪大学大学院文学研究科)



第2期 活動⑤-2 【物語の領分】

バックステージ・セミナー オルガンの可能性を体験する

昨年度から続くバックステージ・セミナーのシリーズの一つとして、同志社中学・高校のチャペルに2017年に設置されたオルガンを見学し、その可能性を考えます。講師佐川氏は、ドイツでオルガン演奏について研鑽を積み、日本に帰国してから、同志社高校にこのオルガンを導入するに際して、主要な役割を果たした若い演奏家です。この楽器は、日本では希少なドイツ、ヴァイス社製のもので、35種のレジスターを備え、最新のMIDI機器との接続も可能で、さらに送風を漸減させる装置が付いています。この漸減装置は20世紀音楽の発想に基づき、日本では他にほとんど例のないもので、今後の新作委嘱などに向けて大きな可能性を秘めています。セミナーでは、まずオルガンの基本構造と機能について説明し、実際の楽器を見た上で、演奏を聴き、さらにこのオルガンを中心にした演奏会の企画を考える場を設ける予定です。
開催日：2020年10月11日(日)
場所：同志社高校 宿志館グレイス・チャペル(京都市)
講師：佐川淳(オルガン奏者)、伊東信宏(大阪大学大学院文学研究科)ほか



第2期 活動④-1 【アイデンティティの揺れ】

現代社会における芸能の所在

地域の祭礼において行われる神楽は、コミュニティにおいて重要な役割を果たしてきました。一方で、現代社会においては、神楽そのものへの関心が薄れてきているのも現実です。古くから伝わる神楽を伝承するだけでなく、新しい要素を加え、存続を続けようとする事実もあります。神楽の存在と消失の問題は、地域コミュニティにおける人々のつながりを表象するものといえます。
鳥根県や広島県の神楽を例に、それぞれの実態を通して、地域における伝統芸能の伝承や現在抱えている課題などについて学びます。
開催日：2020年11月28日(土)、29日(日)
場所：大阪大学(予定)
講師：榎木悟(成城大学)、迫俊道(大阪商業大学)、山崎達哉(大阪大学大学院文学研究科)ほか



第2期 活動④-2 【アイデンティティの揺れ】

アート・リングへアートのエコシステムへのいざないへ The Art Ring – Invitation to the Ecosystem of Art –

アーティスト・サイエンティストたちが産みだす「アート」は、教育・社会そして経済とつながり、次世代の文化創生へと帰結します。このエコシステムは、アートが誕生してから、絶え間なく続いてきました。今年度は「写真」に着目します。ペリーと共に黒船で来航した写真家を祖にもち、幕末の手法である湿板写真を通じて日本の古層を映し続ける日本在住の写真家 Everett Kennedy Brown氏と共に、歴史的写真を展示する展覧会と連動したプロジェクトを実施します。
オンラインもしくはオフラインにて、解説を伴う展覧会見学も実施予定です。
開催日：2020年10月31日(土)
場所：大阪大学総合学術博物館
講師：Everett Kennedy Brown(写真家)、伊藤謙(大阪大学総合学術博物館)ほか



第2期 活動③-3 【対立と調停】

工芸の魅力伝える

東洋陶磁美術館は、東アジアの陶磁器の貴重なコレクションを有する美術館ですが、近年では工芸美術の意欲的な展示企画で知られています。本年は、コロナ禍のために特別な対応がもたらされており、美術館のありかたが根本から問われています。そこで、2020年の東洋陶磁美術館の活動をビデオにおさめたものをご覧いただき、講師とともに、通信メディアの発達にともなう今後の美術館のありかたについて、意見を交わしたいと思います。
開催日：2020年12月5日(土)
場所：オンライン
講師：出川哲朗(東洋陶磁美術館)、宮川智美(東洋陶磁美術館)、高安啓介(大阪大学大学院文学研究科)



第2期 活動③-2 【対立と調停】

バックステージ・セミナー2

現代日本と箏曲

バックステージ・セミナーのシリーズの一つとして公演の前に、その背景について事前にレクチャーを行い、さらにリハーサルを体験し、演奏者、作曲家との対話を行います。
対象となるのは2020年12月12日(土)に予定されている箏曲家、片岡リサの演奏会です。片岡氏は、正確な箏の技術と、本格的な発声による歌唱を兼ね備えた演奏家で、現在最も意欲的に演奏活動を繰り返している箏曲家の一人です。今回、委嘱新作を含む歴史的な広がりのある演奏会を企画していますが、箏曲の歴史は、単純に日本伝統音楽の歴史であるだけでなく、西洋の音楽語法と、日本の伝統との「対立と調停」の歴史でもありました。この演奏会について、演奏家本人を中心にした事前レクチャーを行い、当日のリハーサルを見学し、演奏会の前後に作曲家などとも対話を行います。
開催日：2020年12月12日(土)
場所：箕面市立メイプルホール
講師：片岡リサ(箏曲家)、和田大資(箕面市メイプル文化財団 芸術創造セクションマネージャー)、伊東信宏(大阪大学大学院文学研究科)ほか



第2期 活動⑤-1 【物語の領分】

伝統演劇の現代的表現をめぐる

令和2年12月に劇場公開される劇団エイチエムピー・シアターカンパニーの上演作品を鑑賞し、そのセミナーを行います。
劇団エイチエムピー・シアターカンパニーは、日本の古典演劇を極めてオリジナルな「リミテッド・アニメーション」という独自の手法によって上演しており、伝統と現代の接点を模索している現代劇団です。昨年度はその作品「忠臣蔵」について、鑑賞し、演出家笠井友仁の話を聞き、その創作のキーになる考え方、古典を現代に生かすその方法について、理解しました。今年度は、同じ劇団の「忠臣蔵」の最終篇について、鑑賞とセミナーで理解を深め、古典と現代を結びつける意義について、さらに深く考察していきます。
開催日：2020年12月13日(日)
場所：伊丹アイホール
講師：エイチエムピー・シアターカンパニー、永田靖(大阪大学文学研究科・大阪大学総合学術博物館)



撮影：中谷利明

第3期 活動⑥ 作品制作とセッション

「微しの上を鳥が飛ぶII」クロージング・シンポジウム

シドニー在住の写真家・映像作家金森マユ氏を迎え映像制作とレクチャーのセッションを行います。金森マユ氏は『ハート・オブ・ジャーニー』、『イン・リポーズ』などの日本人移民のアイデンティティを扱った作品で有名で、人種と異文化接触の問題を一貫して扱っています。本年度はシドニーと大阪とをオンラインで繋いで、オーストラリア日系移民についての理解を深め、同時に金森マユ氏の作品について学んでいきます。次年度にはオーストラリアの日系移民の歴史や現在についてのパフォーマンスや映像写真展などを予定しており、それへの橋渡しを行います。
開催日：2020年2月20日(土)
場所：オンライン
講師：金森マユ(写真家)、永田靖(大阪大学大学院文学研究科・大阪大学総合学術博物館)ほか



撮影：金森マユ



第3期 活動⑦

「微しの上を鳥が飛ぶII」

1年間のまとめとして、レクチャー、鑑賞、ワークショップ、ポスト・プロダクション、上演、滞在制作などの様々な芸術体験や実践経験を振り返ります。
開催日：2021年3月6日(土)
場所：大阪大学豊中キャンパス
講師：永田靖(大阪大学大学院文学研究科・大阪大学総合学術博物館)、伊東信宏(大阪大学大学院文学研究科)、渡辺浩司(大阪大学大学院文学研究科)、橋爪節也(大阪大学総合学術博物館)、岡田裕成(大阪大学大学院文学研究科)、高安啓介(大阪大学大学院文学研究科)、古後奈緒子(大阪大学大学院文学研究科)、伊藤謙(大阪大学総合学術博物館)、横田洋(大阪大学総合学術博物館・大阪大学大学院文学研究科)、山崎達哉(大阪大学大学院文学研究科)ほか

※プログラムの日程・内容については、変更、オンライン実施、もしくは中止になる可能性があります。

第2期 インタービュー

演劇、ダンス、音楽、美術などのアート作品や、アーティストとの対話を通して、3つのテーマ(対立と調停、アイデンティティの揺れ、物語の領分)について学習します。

第3期 作品制作